

## スピードと感度を高めて新しい出発を

令和6年度の初めにあたり、ご挨拶を申し上げます。桜もようやく花開いて、春到来の本番です。

皆さん、去年は大きな課題に取り組み、今後への道筋を開いて頂き有り難うございました。伊豆中央道と修善寺道路の償還期間延長と静岡バイパス計画、県営住宅入居基準の変更、ICT活用の進展と働き方改革、一体化計画の進展等々です。

今年は、「スピードと感度を高めて、新しい出発の年にしたい」と思います。どんな外部環境の変化に出会っても、常に経営の基本に立ち、当面する諸課題に真正面から取り組んでいけば、道は必ず拓けます。宜しくお願いします。

さて、4月1日付で幹部の人事異動がありました。役員では宮尾常務の後任に勝又常務が就任し、次長・課長級以下についても一連の人事異動を行ったところですが、皆さん、新体制のもと、心を一つにして、現場感覚を一層磨いて目標に向かって参りましょう。私自身も微力を尽くす所存です。

経営の基本についてはこれまでも繰り返し述べてきましたが、新しい方も居られますので、改めて確認します。次の三つです。

- 1, 「お客様と共に歩む」経営理念の徹底。
- 2, 健全経営の実現。
- 3, 現場主義の徹底。

「経営理念」は、センターと公社の目標、そして組織の存在価値その

ものを示しています。お客様とは私たちを支えてくれる全てのステークホルダー（利害関係者）を指し、良いサービスを続けてお客様に喜んで頂くこと、これ以外に組織発展の道はありません。

「健全経営」は、その結果として世の中から評価される経営の成績表です。ご承知の通り、健全経営は三つの要素からなります。それは、年々の損益の健全性、資産の健全性、それに社会的信用の健全性です。前の二つは財務諸表に数字で表れますが、赤字続きでは組織は早晚立ち行かなくなり、不良資産を抱えていては利益も見せかけに過ぎません。一番大事なのが、信用の健全性です。信用があれば、組織は永らえます。最近流行のSDGsという持続可能性にあたりますが、古来の易しい日本語で言えば長寿化です。ちなみに、日本の創業200年を超える長寿企業の数、世界の65%を占めています。その秘訣は、社会的信用を重んずる経営理念の存在にありました。近江商人の「三方よし」（売り手よし、買い手よし、世間よし）は、その良い例です。目先の損得に目が奪われて大事な信用を失ってしまえば、日本企業の長寿化も先々が心配です。信用は、人が創るものです。一人ひとりがお客様の身になって、親身のサービスを続けることによって、信用は高まっていくのです。また、コンプライアンス（法令遵守）の重要性は改めて申し上げるまでもありませんが、法令遵守は法治国家で国や人が守るべき最低基準であり、特に幹部はじめお一人お一人にお願いしたいのは、それを超えた倫理観を以て仕事をして頂きたいことです。

「現場主義」は、「現場に立って考え行動すること」です。問題がない時にも、将来計画を考える時にも、足しげく現場に出かけ、ヒントを得ましょう。問題が起こったら、真っ先に現場に行き答えを見出して下さい。机上の空論ではダメです。現場主義を徹底することによって、現場で問題を解決する能力、すなわち情理ともに備わった現場力が高まります。何かが起こる前兆さえ掴めるようになる、それが組織の真の実力なのです。毎年の表彰審査会で感じますが、多くの改善提案が出てきます。これは、センター・公社の現場主義・現場力を示

すものとして、私は高く評価し、心強く思っています。

今年の重点課題としては、次の三点に注力したいと思います。

- 1, センター・三公社の一体化促進。
- 2, 予算達成と中期計画推進。
- 3, 市町との連携強化。

「一体化促進」については、昨年度に本格的な取り組みが始まりました。皆さまに感謝申し上げます。いくつかのタスクフォースが組織され、具体的なテーマに基づき、熱心な検討と着実な実行が為されるようになりました。今年の執行体制も、新しくなりました。

ところで、なぜ一体化を進めようとしているのか、について改めて申し上げます。全国的にまた県内でも、公社が減少傾向にある中で、当センターと公社を継続させるにはどうしたら良いか、それが問題の発端であり、その答えを一体化によって見出そうとしています。高度成長時代にできた組織を、すっかり環境の変わった低成長時代にも機能するようにするにはどうしたら良いか、という問題意識です。やや消極的に申せば生き残り戦略であり、より積極的には維持発展戦略であります。先ほども述べましたが、世の中に必要とされる機能、あるいは事業は、必ず存続発展するものだとは私は信じています。旧態依然の形ややり方に固執した時に、組織は時代に対応する弾力性を失って、社会から消えていく運命にあると私は考えています。そのような道をたどることのないよう、この一体化プロジェクトに一層の活力を与えるよう、皆様のお知恵を絞って下さい。

「予算と中期計画の推進」は、事業体として最も重要な活動目標ですから、計画的に実行し、良い結果が残せるよう、来年の3月には悔いの残らないように取り組んで下さい。また、非常事態に際しては、弾力的な対応が必要とされますので、その点も留意しましょう。予算や事業計画の変更は、冒頭に述べた経営の基本にそって判断すれば良いと思います。

「市町との連携強化」は、センター・公社共にその必要性が高まっていますので、これまで以上に注力して下さい。受注量の増大にもつながりますし、県全体の行政サービスの充実という点からも、仕事量を増やすことは重要です。特に技術者や担当の専門家不足で苦勞している市町に対し、センター・公社として何をどれだけお手伝いできるか、市町の当局者と連携して解決策を見出して下さい。汗をかくことになりましたが、宜しくお願いします。

今年は、ぜひ「スピードと感度」を高めて、打てば響くような仕事をして参りましょう。

終わりに、ご家族ともども心身の健康に留意して下さい。そして来年の今ごろ、お互いに「良くやったな！」と言えるような一年といたしましょう。

いつも同じことで恐縮ながら一

**明るく、元気で、仲よく、厳しく！**

以上